

令和5年度 グーフィークラブ事業報告

1. 概要

① 運営目標

- 放課後利用者は12～3人と少ないのですが、生活面や学習面で個々にサポートが必要な子どもが増えてきています。一人ひとりに丁寧な関わりを持つよう努めました
- 大阪教育大学大学院生が中心となり大学院生2名、大学生4名で子どもたちが安心して楽しく過ごせる場を提供できるよう心掛けました
大学院生のリーダーが人材確保にも率先して取り組み、良い人材に恵まれ子どもたちの遊びの幅も広がりました
- 年度途中に卒園児の保護者より不登校になりつつあり、学校の学童クラブも退所してしまい困っているとの相談があり、放課後の居場所として当クラブで受け入れや5,6年生で家庭環境が気になる子どもの受け入れも行いました。次年度も継続して登園してくるので引き続き見守っていきます
- 学校の春・夏・冬休みのみの利用者は出来る限り希望に添えるよう受け入れを行い、2つのグループに分け落ち着いた環境の中で活動を行ないました
- 園内年長児クラスとの交流を行う中で、園児の就学に対する意識付けのサポートをする役割を担いました

②定員 23名

必要に応じてスポット利用や学校の長期休みに利用したいなど保護者の要望に耳を傾けながら可能な限りの受け入れを行いました

③事業日数 291日 (日曜、祝日、園行事、12/30～1/4は休園)

④開所時間

平日 7:00～19:00 (7:00～8:30・18:00～19:00は延長)

土曜 7:00～18:30 (7:00～8:30・18:00～18:30は延長)

⑤職員数 学童保育指導員 3名 (教員免許または保育教諭資格有) アルバイト指導員 4名 (大阪教育大学学生)

2. 事業運営

①教育理念

- 放課後の生活を安全に守り、基本的な生活習慣の指導や学習の習慣づけの援助を行う

- 子ども同士共働しながら生きる力を育む

②教育方針

1. 生活の流れを把握し、リーダーを中心に子ども主体の活動を行いコミュニケーション力をつける
1. 正しい生活習慣を定着させる
1. 他律から自律へと成長していく過程を援助する
1. 個々の存在を認める

③学年別目標

1、2年生

- 大事なことを聞く力、話題に沿って話し合う態度を身につける
- 集団の一員として自分の役割について気づき、適切な行動ができるようにする

3、4年生

- 筋道を立てて話す力、聞く力、話し合う力を身に着ける
- 目的を持って仲間とともにやり遂げる力を育む

- ## ④職員配置
- | | | |
|----------|----|------------------|
| 学童保育指導員 | 3名 | (教員免許または保育教諭資格有) |
| アルバイト指導員 | 4名 | (大阪教育大学学生) |

⑤活動内容

- 子どもたちが主体的、意欲的に生活や遊びを作り上げ、協力し合い、発展させながらコミュニケーション力を育む活動を行いました
遊び始めは仲よく、意欲的に活動に取り組んでいても、時間が経つと遊びがエスカレートして、友だちとのトラブルや気持ちの抑制が効かなくなる場面が多々あるので、サークルタイムなど全体で話し合いをするとともに、一人一人に合った接し方・導き方で、様々な場面での衝動性を抑えるなど気持ちのコントロールができるよう導いていくことが今後の課題でもあると考えています
- 活動マニュアルに沿って活動を行いました。細かな部分では各担任の即座の判断の違いにより、子どもへの指導に違いが出てくるなど複数担任の難しさも感じることもありました
次年度は子どもの様子、細かなことに関しても職員間での伝達を行ない、様々な事柄を共有していくように努めていきたいと思えます
- 子どもが自主的に学習に取り組めるように習慣づけ、学校の宿題を中心に学習指導を行いました
家庭環境やグレーゾーンの子どものが増えてきていて、生活面、学習面において支援が

必要な子どもには個人の困りごとを見極め子どもの自立に向けたサポートに努めました

- 宿題後は戸外での活動を多く取り入れ思いきり身体を動かすことで、学校や家庭でのストレスを発散させるような遊びの工夫、充実を図りました
- 家庭的問題でストレスを抱えている子は、時々乳幼児クラスに入り一緒に遊んだり、職員の手伝いをする事で自己肯定感を高めるよう考慮しました
- 学校の春・夏・冬休みは利用が増えるため、グループに分け少人数で落ち着いた環境の中で活動が行えるよう配慮していきました
- 夕涼み会、ハロウィン、クリスマス会などに参加し園行事を楽しみました
- 夏休みと春休みには大阪教育大学に行き、大学生と広いグラウンドで思いきり走り回ったり、木工工作や学生食堂での昼食、レクリエーションを楽しむなど普段できないたくさんの体験ができました

この大学生との交流の中で子どもたちの積極性、コミュニケーション力、リーダーシップなどといった変化も見られました。次年度もこのような機会を設けていけたらと思っています

⑥家庭との連携

- 活動内容を報告する「おたより」、保護者へのお知らせをその都度配布しました
- 一人ひとりの様子（子どもの表情や行動など）をしっかりと把握し、少しでも普段と違う様子が見受けられたときは、子どもの話に耳を傾け、その状況を保護者や担任同士共有するように努めました
- 家庭環境で気になる子どもにおいては保護者との面談を複数回行っていますが、なかなか改善には至らず、児童の様子を見ながら職員間で共有し子どもに寄り添い、指導に当たるよう心掛けました。次年度も引き続き行っています

⑦人材育成

- 職員の資質向上及び専門性の向上を図るため、園内研修・園外研修へ参加しました
- 活動マニュアルの読み合わせや必要に応じて書き加えなどを担任間で行いました
- アルバイト職員も乳幼児クラスに入り乳幼児の育ちを知ることで、学童への接し方や指導の仕方の学びにつながっています

⑧地域貢献

- 学校の春・夏・冬休み期間は朝の登園後すぐに瓢箪山公園の清掃やゴミ拾いなど公園の環境美化の取り組みを行いました。時には粉々に割られたガラス瓶や食べ散らかした大量のゴミや何かを燃やした残がい、壁への落書きなど様々なものを目の当たりにして心を痛めることもありましたが、反対に子どもたちの環境美化意識は増し、

意欲的に公園整備に取り組む姿がありました。毎日、継続することで「地域の一員であること」「ごみの無いきれいな公園を大切にする気持ち」を養うことができました。今後も、SDGsへの興味関心を持ち、貢献につながることを子どもたちと一緒に考え学んでいきたいと思っています

- 出張保育、園庭開放の手伝いをすることで、地域の乳幼児と関わる活動も行いました

⑪リスクマネジメント

- 職員全員が子どもたちと一緒に学校から園までの下校路を確認し、普段より帰りが30分以上遅い子どもは保護者に連絡するとともに、迎えに出ることもありました。遅く帰ってきた子どもには事情を聞き、通学路や帰園時間を守る大切さを伝えていきました
 - 子ども同士のトラブルや危険行為などに関してはなぜ危険なのかを一緒に考えたり、改善方法を当事者同士やクラス全体で話し合いを行いました
 - 怪我に関しては迅速に保護者への連絡と医療機関へ受診しました。
 - ・園庭で転倒して顔面を打ち、前歯がぐらつく怪我
 - ・園庭で転倒して足指にひびが入る怪我
 - ・桜町公園で転倒して足首にひびが入る怪我全て、治療完了しています
- 職員間ではヒヤリハットの書類を作成し、怪我の原因、経過、再発防止について話し合いを行いました
- 園の避難訓練に参加し、災害時の避難場所、避難方法などについて子どもたちと一緒に体験し災害時の行動について学習しました
- また職員同士、園の避難マニュアルを基に想定できるリスクや具体的な対処法を共有しました
- 近隣での不審者情報や警報発令時は子どもだけの降園はさせず、保護者に送迎を要請し子どもだけでの登校園を控えました
 - 保護者も学校でインフルエンザなど感染症による学級閉鎖の際は、グーフィークラブも欠席することで感染拡大防止に努めてくれたり、台風など警報発令時には速やかに迎えに来てくれるなど協力をしてくれました

⑩苦情解決

- 常日頃から送迎時に保護者との会話を心掛け、個人面談、連絡ノート、アンケートなどで保護者の意見を聞きとるなど関係性を深めるよう努めました